

おさかな瓦版 No.86 イセエビ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-03-19 キーワード: 作成者: 水産研究・教育機構 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2001520">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2001520</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.





# おさかなかわばん瓦版

No. 86  
2018. 11

シリーズ：エビ・カニ 第10回

## イセエビ



ふーちゃんのトピックス

「あつまれ FRAキッズ! イベントページ」ができました!  
作つくってみよう! ぼく わたしのおさかな

# イセエビ

～ 謎多い大旅行をする大型エビ～

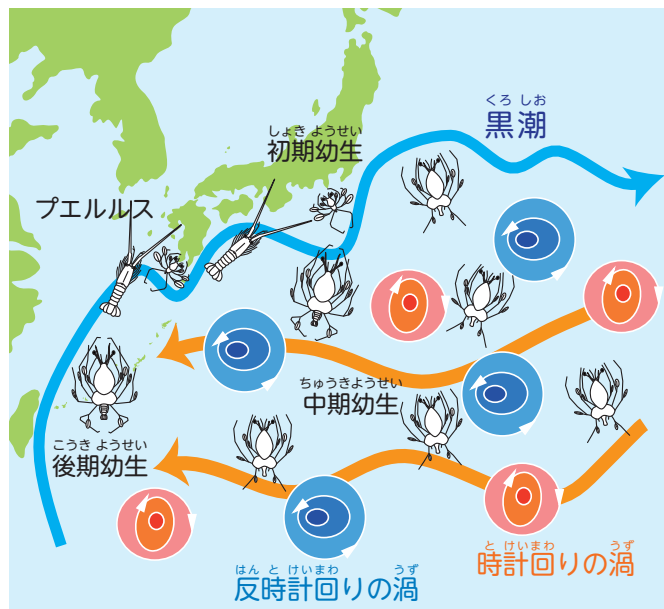


📷 めでたい席でのイセエビ

名前の通り三重県の伊勢で多く獲れる日本人になじみ深いエビです。千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸と、長崎県から鹿児島県の東シナ海沿岸の温帯域に広くすんでいて、台湾北部や韓国の済州島にも生息します。長いひげが長寿を連想させるため、結婚式などでめでたい席で重宝されます(📷)。かつて関東では鎌倉産がよく出回ったようで、カマクラエビとも呼ばれました。浅瀬から水深約100メートルまでに生息し、貝類や甲殻類などさまざまな動物をエサにする夜行性のエビです。深い場所にはオスが多いのですが、その生態は今もよく分かっていません。

沿岸でふ化したフィロソーマと呼ばれる幼生は、その後一年近くもの長い間にわたって海中を漂うことが近年の飼育実験で明らかに

なりました。しかし、成長するにつれて沿岸域からいなくなり、どこへ行くのかは長年の謎でした。近年になって、東は東経160度・北緯30度、南は東経142度・北緯14度付近で幼生が採取されたことから、日本列島近



📍 1 イセエビの移送経路



あんじいのワンポイントアドバイス

あんじい：ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です

## イセエビは鳴く!?

イセエビはギーギーと鳴きます。口から出す声ではなく触覚の根元近くの発音器をこすり合わせて音を出します。調理された後でも触覚を前後に動かせば鳴きます。南半球にいる形のよく似たミナマイセエビ類が日本に輸入されていますが、これには発音器がありません。触覚を動かして鳴かなければミナマイセエビの仲間だと簡単に分かります。



イセエビの発音器

くを東に流れる黒潮の南側の沖合に広く運ばれることが分かりました (1)。

これらの幼生は黒潮とその沖合をゆっくりと西に進む渦によって再び日本列島に近づくと考えられていますが、詳しいルートなどは今も謎です。

沖合から黒潮近くに運ばれた幼生は体長約2センチのプエルルスに変態し、海流と遊泳力で沿岸まで戻ります。そして、海藻の森(藻場)に降りて親エビと同じ海底を歩く生活に移り、稚エビに脱皮して成長します。藻場で一年ほど過ごした稚エビは、次第に海藻の

ない場所にも広がっていきます (2)。

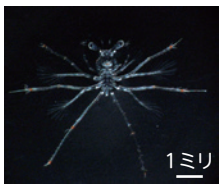
この稚エビに大切な藻場が九州では大幅に減っていて、イセエビに大きな影響を与えています。九州では5県(長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島)がイセエビを漁獲していて、中でも長崎や鹿児島はかつて日本一の漁獲県でした。しかし、近年は5県の漁獲量を合わせても、広い藻場の残る千葉県や三重県に及びません。温暖化が進むとさらに藻場が減ると予測されていて、減ったイセエビを大切にしながら、回復させる方法を見出す必要があります。(吉村 拓)

### フィロソーマ

### プエルルス

### 稚エビ

### 親エビ

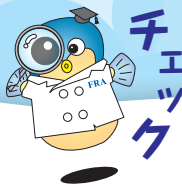


一年近くの長い間  
プランクトンとして海を漂う

一年以上、浅瀬の  
海藻の森にすむ

海藻の森の外や  
深い場所にもすむ

## 2 イセエビの一生



### 抜け殻でできる標本

生き物を理解するのに役立つ標本は、死んだ個体で作ることが一般的です。しかし、イセエビなど甲殻類は成長するために脱皮するので、脱ぎすてられた殻をきれいに整えて自然に乾かせば、簡単に標本(写真は沖縄などに分布するニシキエビ)を作ることができます。中がからっぽなので壊れやすい弱点はありますが、見栄えは十分です。胃や腸の一部まで脱皮します。

きれいに脱皮するね!





# 「あつまれ FRA キッズ！ イベントページ」ができました！

水産研究・教育機構では、魚や海、水産業のことをみんなにもっと知ってもらうため、さまざまなイベントに出展しています。イベント会場では、水産業のながれが学べる模型やアニメーションの展示、ぬりえなどを企画しています。

「あつまれ FRA キッズ！ イベントページ」では、イベントの開催情報や参加してくれたみんなの作品を紹介しています。ホームページを見て、ぜひ会場にも遊びに来てね。



イベントページホーム画面

## 作ってみよう！ ぼくわたしのおさかな

イベント会場で、おさかなに好きな色や模様をつけて、自分だけのおさかなが作れるよ。完成したおさかなをブース内にある専用の箱に入れてね。後日「あつまれ FRA キッズ！ イベントページ」で紹介するよ。さらに、抽選で選ばれたおさかなは、映像の中を自由に動き回るアニメーションになるよ！ 会場には専用のフレームもあるので、記念に写真を撮ることもできるよ。



作ってみよう！ ぼくわたしのおさかな 企画ページ



ぬりえ紹介



アニメーション



イベントのようす

みんな楽しそう  
私もチャレンジ！



ふーちゃん と ふっくん： あんじい仙人のもとで修行している研究員です

### おさかな瓦版 No.86 (2018年11月発行)

編集・発行：国立研究開発法人 水産研究・教育機構

質問の送り先・お問い合わせ先：広報課

〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-3  
クイーンズタワー B 15階

TEL. 045-227-2600 FAX. 045-227-2702  
ウェブサイト <http://www.fra.affrc.go.jp/>

さかなやエビ、カニなどの水産動物や海藻のことでわからないことがあったら、広報課までハガキを送ってね。＜聞きたいことの内容＞、＜学年＞、＜住所＞、＜名前＞を忘れずに書いてね。ふっくんが「なんでもコーナー」でお答えします。

表紙写真



岩かげに隠れるイセエビ



水産庁の主催する魚の国のしあわせプロジェクトに参加しています

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。